

令和7年度(2025年度)学校評価

天草市立本渡看護専門学校
令和8年3月

1 学校の教育目標

- 1 心豊かで円満な人間性を養うことができる。
- 2 生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養うことができる。
- 3 対象である人間を総合的にとらえ、看護上の問題が解決できる能力を養うことができる。
- 4 保健医療チームの一員として、看護職の果たす役割と責任を自覚する。
- 5 専門職として常に問題意識を持ちつつ、生涯を通して学習に努め、看護を探究する姿勢を養うことができる。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 令和7年度目標
- 各学年に応じた社会人基礎力
ボランティアや地域の活動にも参加しながら、「前に踏み出す力」や「チームで働く力」を高めていきたい。
また、東京藝術大学特別講義「DOOR」に参加し、全人的ケアを与えるアートに触れ、「考え抜く力」や「倫理」の能力も育みたい。
 - 卒業生の市内医療機関等への就職率50%以上を維持
 - 国家試験合格率(100%)
 - 優秀な生徒・学生の確保

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価
・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.7
・学校における職業教育の特色は何か	3.7
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.3
・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.5

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 教育理念・目標の周知と共有の徹底を図っている。(学内全体会議・新入生オリエンテーション等で、学校の理念・育成人材像・将来構想を繰り返し共有。)
課題: 学生・保護者等への周知の定着度のさらなる向上が必要である。(説明会や学習サポートの一体運用を強化し、理念・目標・将来像の理解度を定期的に測定する。)

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.5
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.5
・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.5
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 運営方針と事業計画の整合性を確認する仕組みの強化(年度計画と中長期計画を照合し、達成指標の現状と課題の可視化。)
課題: 教育活動と業務の情報公開の充実を図る。(情報量・分かりやすさの向上。統計データや指標を分かりやすく可視化。)会議の内容や議事録作成をICTを活用し、業務の効率化を図る。

(3)教育活動

評 価 項 目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3.8
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.8
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.8
・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3.6
・関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3.3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、学習等)が体系的に位置づけられているか	3.6
・授業評価の実施、評価体制はあるか	3.8
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.6
・成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	3.7
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.6
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.6
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3.7
・関連分野における先端的な知識、技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4

取組みの概要及び今後の課題
<p>取り組み: 実習指導者会議等を定期的に開催し、看護師に求められる能力や課題を明らかにし、情報を共有するように、心がけた。今年度は、臨床判断能力や社会人基礎力の向上に向けた支援の必要性について確認した。また、看護教員ラダーを明らかにし、専任のサポーターが新人教員の自己成長を促がすように、計画的に支援を行った。</p> <p>課題: 教員の資質や能力の開発に努める。</p>

(4)学修成果

評 価 項 目	自己評価
・就職率の向上が図られているか	3.8
・資格取得率の向上が図られているか	3.8
・退学率の低減が図られているか	3.0
・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.5
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 就職・資格取得の実績向上を支える支援体制を強化した。(就職支援(個別指導、求人情報の充実、企業との連携強化)を年度計画にし、就職率の向上指標を設定して定期的な進捗確認。)
 課題: 就職・キャリア形成の効果測定と活用強化する。(卒業生の社会的活躍データを定期的に公開・共有し、学校の教育価値を外部に示す資料を整備する。)退学率は、昨年度の2.6から3.2%に増加した。退学の原因分析を行い、低減を図る必要がある。

(5)学生支援

評 価 項 目	自己評価
・進路、就職に関する支援体制は整備されているか	3.9
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.8
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.8
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3.4
・保護者と適切に連携しているか	3.6
・卒業生への支援体制はあるか	3.7
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.3
・高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	3.6

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: キャリア支援・就職支援の連携強化を図った。(就職率向上のための早期キャリア教育と個別指導を計画的に実施する。)また、学生相談室の相談日を週1回実施した。また、予防教育を各学年の希望者に昼休みの時間でストレスコントロールの実践を行った。
 課題: 保護者・卒業生との連携と情報提供の充実(卒業生の就労状況・キャリア形成のフォローアップを強化し、教育活動の改善に活用する。)

(6)教育環境

評 価 項 目	自己評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.5
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.4
・防災に対する体制は整備されているか	3.7

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 学習環境の強化を図った。(実習施設・インターンシップ等開催状況と評価の可視化(統一管理)。)施設・設備については、ガイドライン等を参照し、必要な物品の点検や補充を心がけている。また、学生が学習しやすい環境を整え、訪問者にとって爽やかな環境を提供するようにした。
課題: 実習施設の質の向上を図る。(実習先の評価指標を整備し、学習成果と職業実践との結びつきを強化する。)

(7)学生の受入れ募集

評 価 項 目	自己評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3.7
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.4
・学納金は妥当なものとなっているか	3.4

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 学生募集活動の透明性と成果の明示(募集要項・学費・奨学金等の情報をホームページ・パンフレット・説明会で伝える。教育成果(就職実績・資格取得率・学費対効果等)のデータ整備)課題: 募集活動の効果測定と改善サイクルの確立(費用対効果、応募者・入学者数・離脱率を追跡し、効果的な媒体やイベントを特定する。)

(8)財務

評 価 項 目	自己評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.5
・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.6
・財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
・財務情報公開の体制整備はできているか	3.9

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 会計監査の適正性の確保(監査指摘事項を速やかに是正し、監査対応の改善サイクルを確立する。)

(9)法令等の遵守

評 価 項 目	自己評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9
・個人情報に関し、その保護のための対策がとれているか	3.9
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.5
・自己評価結果を公開しているか	3.7

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 自己評価の実施と改善サイクルの確立するように努めた。看護師等養成所指導調査を受けたが、指摘事項もなく適切な運営が行われているとの評価を得た。(自己評価の実施頻度を維持・向上させ、指摘事項の改善状況をフォローアップする。)

課題: 自己評価結果公開と透明性確保した。(公開範囲と方法を明確化し、外部関係者への説明責任を果たす。)

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3.9
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4.0
・地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.7

取組みの概要及び今後の課題

取り組み: 学生ボランティア活動の奨励・支援した。(ボランティア活動の参加機会を増やし、参加費用・活動内容の透明性確保。指導教員配置・サポート体制を整え、成果記録や評価を行う。)
課題: ボランティア活動の組織化・評価する。(参加の動機付け、リーダー育成、活動記録の一元管理。地域貢献成果を学校全体の指標として可視化。)

○今年度は、市内医療機関等への就職率が52.5%と過去最高であった昨年よりも低下したが、目標は達成することができた。コロナの影響から島外への就職を避けてきた時期を過ぎ、熊本、さらには関東まで幅広く選択する傾向がみられた。今後もこの傾向は続くことが予想され、市内医療機関を選択する支援の強化が必要である。

○社会人基礎力については、学校独自の学年ごと到達目標と自己評価シートを作成し、4か月ごとのチェックを行った。学校行事や実習を通して社会人基礎力が向上し、最終評価では学年目標に対して、その基礎力を概ね達成できるレベルまで到達していた。

○看護師国家試験の合格率は、97.5%で1名が不合格であった。今年度は新たにデジタル学習サービスを利用し強化を図った。この取り組みは、教員にとっては問題作成の手間が減り、学生の成績や学習状況が確認でき、支援につなげやすかった。一方で、学生にとっては、成績の中間層から上位層の学生には振返り機能を活用し学習でき効果的であったが、下位学生は問題を解くレベルまでの活用にとどまり十分な効果があったとは言い難い。成績下位学生は、保護者面談を行うなど支援を追加した。今後も個別支援においてさらなる工夫が必要である。

○学生・生徒の確保については、オープンキャンパス参加者の入学率が高いこと、県外受験者の増をねらいとしてオープンキャンパスの開催周知を九州内の高校まで広げ、参加者を募った。参加者の減少傾向がある中、今年度も昨年同様の参加者数を維持し、県外からの参加もあった。また、地域のミニバレーボール大会への参加やボランティアへの参加なども昨年より増えた。

東京藝術大学との連携事業はアンケートを実施し、豊かな人間性の形成に影響があることなど一定の効果を確認できた。ただし、再聴講の理解度低下、授業時間制約、実習、地域行事調整の困難により、現場の負担が増大した。予算増額と教員負担増加を踏まえ、教育の質確保の観点から継続は困難と判断し、授業の継続を見送ることとした。

また、学校独自のホームページができあがり、実際の運用は令和8年度からである。